

についてももう少しページをさいて、詳しく論じても良かったかもしれない。

第6章では、アメリカ合衆国の先進的な地図&地球儀授業の実践例が紹介される。アメリカ合衆国の小学校では、第2学年で地球儀を活用した授業を実践している。低学年から地球儀を使うこと自体に興味深いのが、2年生でも分かり易いような低学年向き地球儀が、用意されているという教材の豊かさに驚かされる。アメリカ合衆国では、マップ・グローブスキルとして、地図・地球儀の活用力の育成が系統的に図られていると言う。また、イギリスでも、近年グラフィカシーという概念が提示され、地図・地球儀の活用力の育成に関心が高いと報告される。そろそろ日本でも、地図・地球儀の活用を本気で考える時期が来ていると言える。

本書を読むときには、地図帳を手元に置き、関係するページを開き、地図・地球儀学習の実際を想像しながら読み進めると、より学習の場面をリアルに再現して読むことができる。

版権の都合もあるが、本書に地図帳の主要な地図がいくつか掲載されれば、理解の手助けとなるように思われた。また、文献が本文中に割注の形で示されているが、さらに理解を深めたい読者のために、参考文献の一覧があっても良かったと感じた。

著者は、「地図帳は、単に、『何がどこにあるか。』（位置）を引き出すだけの字引ではない。（中略）地球という大きな布地にそれぞれの国や地域の『生活文化』という絵柄が生き生きと印刷された辞典なのである。」と主張する。本書を通して、世界像形成における地理教育の役割が理解できると思う。

教育現場で子どもと向き合い明日の授業の組み立てに悩む教師はもちろん、世界像形成と地図・地球儀、地理教育とのかかわりについて具体的に考えてみたい方々には是非読んでもらいたい本である。

(吉田和義)

野間晴雄・香川貴志・土平 博・河角龍典・小原文明編著：『ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖』

B5判、262ページ、2012年、海青社、2,500円＋税。

本書は『ジオ・パル 21』の後継本である。『ジオ・パル 21』は、1993年に初めて公刊された『ジオグラフィック パル』の第3世代にあたる本で、本書はその第4世代ということになる。あらためてこれら4冊に関する書籍情報をまとめれば以下のようなものである。

- ①浮田典良編『ジオグラフィック パル—地理学便利帖（1994-95年版）』、B5判、172ページ、1993年、2,136円＋税
- ②浮田典良編『ジオグラフィック パル—地理学便利帖（1998-99年版）』、B5判、178ページ、1998年、2,500円＋税
- ③浮田典良・池田 碩・戸所 隆・野間晴雄・藤井 正著『ジオ・パル 21—地理学便利帖』、B5判、207ページ、2001年、2,500円＋税
- ④野間晴雄・香川貴志・土平 博・河角龍典・小原文明編著『ジオ・パル NEO—地理学・地域調査便利帖』、B5判、262ページ、2012年、2,500円＋税

上記のように、当初は浮田氏による「編」の形で出発し、やがて「共著」となり、今回「共編著」となった。こうした編集形態の変遷には、かつての著者たちの一部が今日あるいは他界し、あるいは現役を退いたことが反映している。またそれが今回「編著」とされたわけは、先輩たち（浮田・池田・戸所・藤井の諸氏）の業績に敬意を表し、その原稿を本書に生かすという、編者たちの配慮とこだわりの跡も感じられる。「旧版の残すべき部分は積極的に利用し、旧版執筆者と交流会をもち、それを新版に反映させました」と、代表編者の野間氏は書いている(p.2)。

同じはしがきによれば、本書は体よく相互に

棲み分けを図った分担執筆本ではない。編者たちは30回もの編集会議をもち、すべての項目について版元スタッフとも意思疎通を密にしていた。議論に議論を重ねた文字通りの「共編著」であり、血の通った労作である。今回、大幅な増ページにもかかわらず、価格が据え置かれていることに、版元である海青社の熱意と心意気を感じ取ることもできる。

本書の章立てを大まかに示そう。

イントロ

- 第1章 これから地理学を学ぶ人のために
- 第2章 大学で学ぶ地理学
- 第3章 地理学を学んで社会に出るスタディ
- 第4章 地理学の諸分野、地域区分の概念
- 第5章 地理学研究のための基本文献と情報検索
- 第6章 地図類と空中写真・衛星画像の利用
- 第7章 主題図の作成
- 第8章 統計とその利用
- 第9章 GIS（地理情報システム）の利用
- 第10章 フィールドワーク
- 第11章 プレゼンテーションと卒業論文の書き方

アドバンス

- 第12章 地理学の歩み
- 第13章 地理学関係の学会および学会誌
- 第14章 地理学の応用

〔資料〕

以上のように、全14章を「イントロ」「スタディ」「アドバンス」からなる3部構成としている点が、本書の最大の特色であろう。

「イントロ」は3章からなっており、ここでは大学で地理学やその隣接分野をはじめて学ぶ人たちのために、その「入り口」から「出口」までが概観されている。第1章は、地理学特有の見方・考え方や技術・技能が解説される。高校で地理未履修の入学者が増えていることも念頭に置き、平易な言葉で語られるとともに、重要語句にはゴチックがつけられている。一方、地理既習者に対しては、小・中・高校の学習指

導要領を対比しながら、大学地理学との違いが解説されている。第2章は、大学で地理学を専門に学ぶ人に役立つ情報が満載されている。もっぱら地理学を学べる大学や、学際的に地理学が学べる大学の全国リストが示されたうえ、地理学科で学ぶ学生の時間割例なども示され、どこで、どのように学べるのかがイメージできる書き方が追求されている。第3章は、地理学を学ぶとどのような分野に就職できるかを、実際に地理学関連学部卒の卒業生の声も交えながら解説している。また、在学中に取得できる資格・免許や、大学院進学のことについても案内が加えられている。

以上の構成と内容は、懇切丁寧な解説書であるのはもちろんのこと、多分に、現在政府が推進している「学士力の強化」という課題に、地理学の分野から応えようとしたもののように読める。学士力強化には、入学・学修・卒業の3局面における抜本改革が必要であり、それぞれアドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを社会に明確に発信することが求められている。本書ではこのことに触れていないが、優れた地理学啓蒙書であるとともに、評者には大学教育改革の実践書であるとも感じられた。前書『ジオ・パル21』との最大の違いは、本書のこの「イントロ」にあるといえよう。

次に、全8章からなる「スタディ」は、本書の本体にあたる部分で、ここでは前書『ジオ・パル21』をかなり引き継いでいる。もちろん、内容は適宜更新されているし、章立ても新たな枠組みから再構成され、書物としての体系的性がより明確に主張されている。一例だけ挙げれば、前書の「第6章 地図類とその利用」は、本書では「第6章 地図類と空中写真・衛星画像の利用」と「第7章 主題図の作成」に再編され、ページ数も大幅に増補された。前書の第6章でも、空中写真や衛星画像、主題図のことについては節・項が設けられていたのであるが、主題図の作成を章に昇格させることで、

全体の構成がすっきりと再編された。

また、主題図の関係を昇格させた理由は次のように考えられる。すなわち、パソコンによる地図作製が普及したのを受けて解説を充実させたこともあるが、より大きな意図として、学生が論文作成に際して主題図を活かすことがあろう。つまり、本書全編を通じて言えることだが、従来の書籍にありがちだった語り手中心の記述（前書も多分に読み手に配慮した構成・内容だったが）から、いっそう学び手中心の記述へと進化したことが感じられる。

「アドバンス」は、「第12章 地理学の歩み」「第13章 地理学関係の学会および学会誌」「第14章 地理学の応用」からなっている。このうち、第12章はもとの第1章を、第13章はもとの第4章をベースにしている。つまり、イントロースタディアドバンスという3部構成に対応させて、前書を大幅に再構成していることがここにも窺える。これに対して、終章の第14章は今回新設された章である。その柱は「1 地理学からの災害研究」だが、ここでは兵庫県南部地震と東北地方太平洋沖地震の例を取り上げ、ハザードマップの概念だけでなく、津波の教訓碑などにも触れている。これらの扱いは、単に内容をアップ・ツー・デイトしただけでなく、地理教育を専攻する評者の目から見れば、

学習指導要領や学校地理の動向、学習指導法などにもよく目配りがなされていると感じられる。

以上のほか、指摘できなかった本書の特長をいくつか挙げれば、まず、「第12章 地理学の歩み」に設けられている地理学関連の人名解説であるが、前書の104から、本書では125に増やされたとともに、業績を理解するための図がかなり増補されている。項目の増加分は、主にこの間亡くなった日本の地理学者に関してのものだが、こういうあたりにも編著者たちの配慮や意欲の跡が感じられる。また、巻頭には16ページにわたってカラーグラビアが載せられている。内容は新旧の様々な地図や景観写真などであるが、今回はじめてカラー写真が使われたことで、視覚的な情報量が格段に増加した。

本書を読んでいるととにかく感じるのは、「こだわりの書」ということである。強いこだわりを実現するために、多くの時間が費やされたであろうことが伝わってくる。そのこだわりは、今回の編著者たちのものであるのはもちろんのこと、浮田氏に発した、代々の関係者の努力の積み重ねであるといえよう。

大学・高校の地理学・地理教育関係者、地理学界関係者にぜひとも常備をお願いしたい好著である。

(戸井田克己)